

(8) 中国



中国地域では、景気は緩やかな持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。

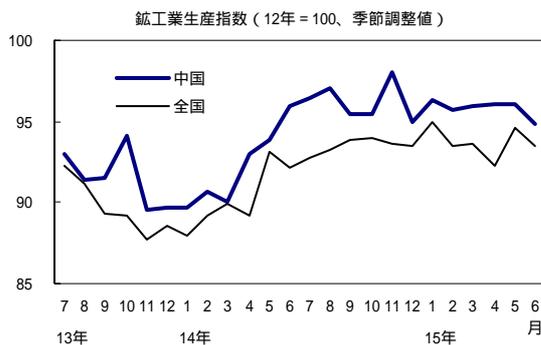
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 5 月）	今回（平成 15 年 8 月）	
景況判断	改善の動きに足踏みがみられる	緩やかな持ち直しの動きが続いている	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

化学は、国内需要が堅調なものの、価格低迷により一部に生産調整の動きもあり、SARSの影響などで輸出が減少傾向にあることから、減少している。鉄鋼は、アジア向け輸出や自動車向けが引き続き堅調であり、おおむね横ばいとなっている。輸送機械は、アジア、欧州向けの新型車が好調であり、持ち直しの動きがみられる。一般機械は、自動車向けは好調だが、国内の設備投資抑制が続いていることから、減少している。電子部品・デバイスは、パソコン向けが依然低迷しているものの、カメラ付き携帯電話やデジタルカメラ向けが好調であり、増加傾向にある。



(備考) 平成 15 年 6 月の中国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

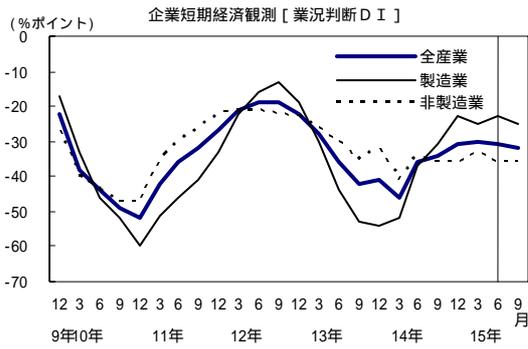
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
化学	17.6	7.0	4.3	4.6	0.1
鉄鋼	12.1	2.4	0.8	3.1	1.2
輸送機械	12.0	11.2	3.0	1.7	25.3
一般機械	10.4	8.8	8.7	9.5	8.4
電子部品・デバイス	7.6	5.0	5.0	5.6	-
鉱工業	100.0	0.1	0.3	0.0	1.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

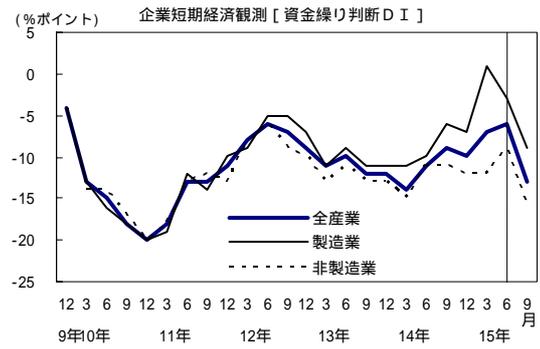
2. 4~6 月期は速報値。

3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

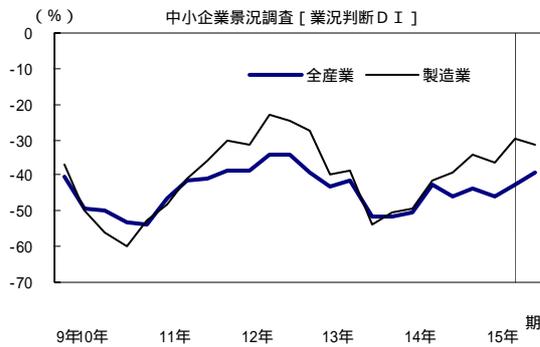
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年9月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年9月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「商品の売行きが国内では全く低調である。特殊商品に関してのみ動きがあるだけで、通常商品については以前同様動きが鈍い(その他製造業[スポーツ用品])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績とほぼ同水準になっている。

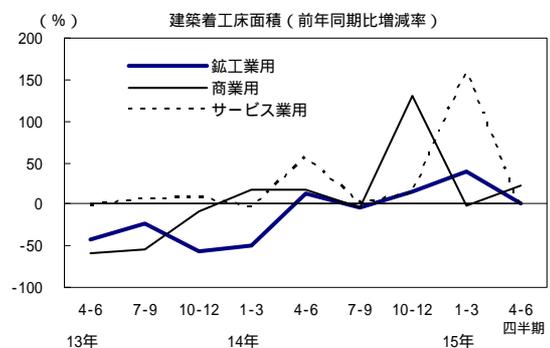
企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度画
全産業	9.7 (6.8)	1.3 (7.8)
製造業	10.2 (0.9)	3.6 (4.3)
非製造業	9.1 (12.4)	1.1 (11.5)

(備考) ソフトウェアを含む設備投資。

()は前回(3月)調査比修正率。



(8) 中国

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

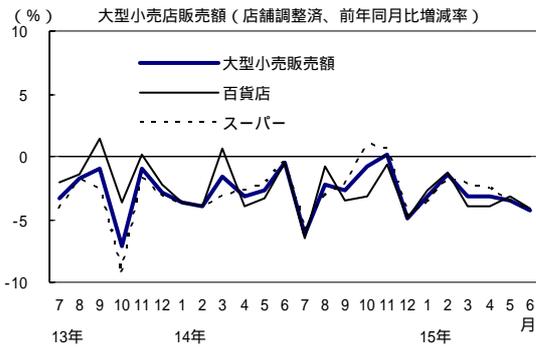
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、4月は前半に雨が多く、婦人服など衣料の売上が減少し、5月はゴールデンウィークは好調だったものの、中旬から気温が低くなり客足が鈍った。6月は飲食料品がわずかながら増加に転じたものの、一方で家具など家庭用品が大きく落ち込んでおり、引き続き前年を下回っている。

スーパーでは、4月に発泡酒増税前の駆け込み需要があったものの、5月にその反動が出てマイナスとなっており、家庭用品が3か月連続前年比2けたの減少となるなど、引き続き前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「夏物バーゲンとなり客の低価格要望は変わらないが、単価は安定してきており、高額商品でも品質が良い物が半額になれば動きは良い(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

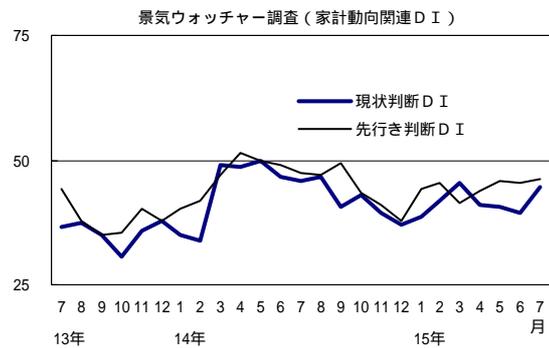
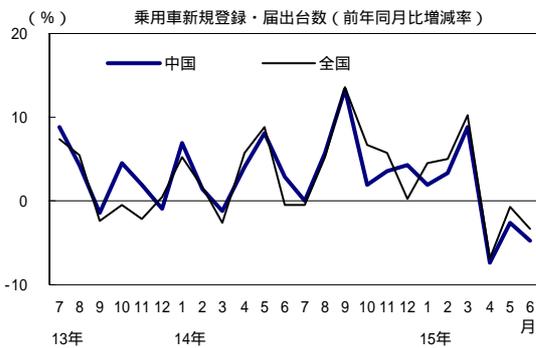


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月
大型小売店	3.9	2.2	2.7	3.6
百貨店	4.0	3.1	2.8	3.8
スーパー	3.8	1.5	2.6	3.5
乗用車	6.3	3.3	5.5	4.8
景気ウォッチャー	44.3	39.8	42.0	40.3

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

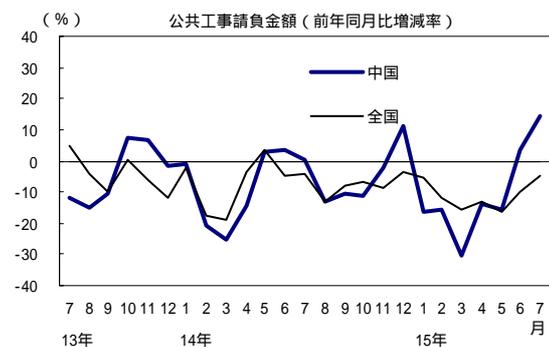
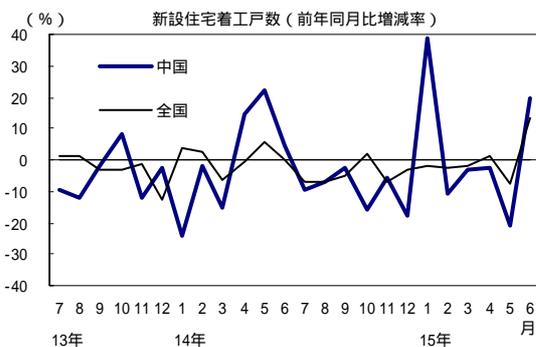
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

分譲がやや前年を下回ったものの、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年とほぼ同水準になっている。

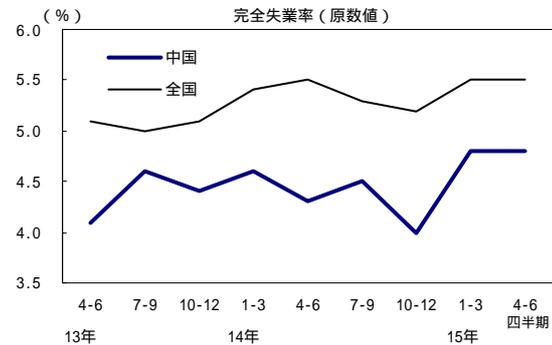
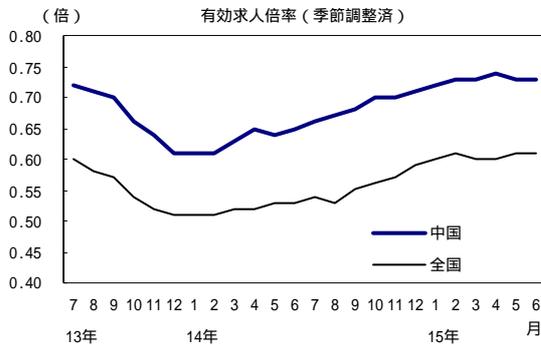


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(7月調査)[雇用関連(現状判断)]

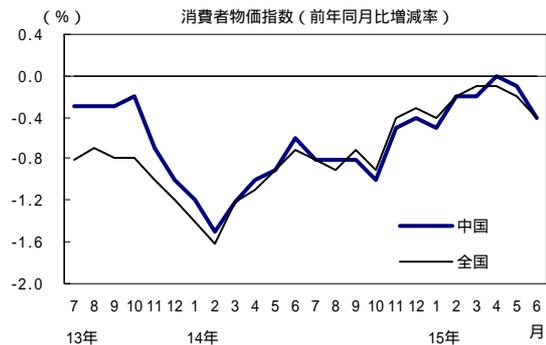
「クライアントに大量採用を検討している企業や、各部署から人事部へ頻繁に求人要請が入る企業もあるが、その実態は退職補充やリストラ大量解雇の補充であり、新規増員としての案件は少ない(民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月	15年7月
倒産件数	248	254	234	217	58
(前年比)	6.0	10.0	0.4	1.4	43.1
負債総額	850	791	1,545	844	123
(前年比)	11.5	43.2	58.4	75.8	45.7



景気ウォッチャー調査(7月調査)[合計D I(特徴的な判断理由)]

<現状>

・これまでは100円均一という商品が売っていたが、日配商品の場合は最近売れなくなり、むしろ付加価値の高いこだわりのある商品が売れている状態である(食料品製造業)

<先行き>

・自動車関連材料の低下もなく堅調を維持しており、エレクトロニクス材料の動向にやや動きが始めている。また9月以降、半導体関連材料に増加が見込まれており、全体の動きを上昇傾向に引っ張る(鉄鋼業)

